

演題

明日を担う微生物検査技師に語り継ぐ！ 日々の検査で私たちが悩ませる 数々のピットフォール対症療法



座長

宮本 比呂志 先生

佐賀大学医学部 病因病態科学講座 微生物分野 教授

演者

永沢善三 先生

国際医療福祉大学福岡保健医療学部医学検査学科／
国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻臨床検査学分野 教授

日時：2025年**1月26日**(金) **11:55～12:45**

会場：第2会場(名古屋国際会議場 1号館4階 レセプションホール)

ランチョンセミナーは、事前申込制となります。

学会HPの「ランチョンセミナー」ページよりお申込みください。



共催：第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会 / ベックマン・コールター株式会社



明日を担う微生物検査技師に語り継ぐ！

日々の検査で私たちが悩ませる数々のピットフォール対症療法

永沢善三

国際医療福祉大学福岡保健医療学部医学検査学科／

国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻臨床検査学分野 教授

こんなとき、どのように考え、どのように検査を進めていますか？

- みえているグラム染色像が教科書やアトラスに載っているものと形態が異なっている。
- 提出された尿検体には既に抗菌薬投与がされているようだ。このまま進めてよい？結果にどう影響する？
- 同じ患者の血液培養と尿培養から分離されたグラム陽性球菌で、分析装置の同定菌名が異なっている。
- 2種類の分析装置を使用して、同定試験してみたら同定検査結果に乖離が生じる。
- 簡易同定キットの基質反応成績から菌種を推定したい。
- 血液培養ボトルの5日間培養で陰性だったが、依頼医から陰性疑義の問い合わせがあった。
- 薬剤感受性試験の結果が感性的の抗菌薬が臨床効果を示していない。

このように、教科書やガイドラインの知識だけでは太刀打ちできない問題に度々出会うのが臨床微生物検査です。

上記のような問題に対して、臨床微生物検査の視点から、検体採取・同定検査・薬剤感受性検査などの検査過程で知っておくべき基礎知識とそのピットフォールを中心に、演者の経験から学んだワンランク上を目指す対処法を解説します。

明日からの検査で使える生きた知識を持ち帰り、ぜひ現場で活用してください。

